

北海道浮魚ニュース

平成 26 (2014) 年度 3 号

2014 年 5 月 26 日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 18 日～ 23 日の期間、北海道松前沖から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査海域のスルメイカ分布密度は昨年を下回った。
- ・漁期開始直後の漁獲は近年では低い水準に止まると予想される。
- ・魚体サイズは昨年及び過去 5 年平均より小さい。

1. 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 5 点の表面水温は 10.8 ～ 14.3 °C (昨年 6 点 8.2 ～ 13.1 °C)、水深 50 m の水温は 6.2 ～ 9.7 °C (昨年 3.8 ～ 11.2 °C) の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる水深 50m の水温分布では、10 °C 以上の比較的水温の高い海域が昨年に比べ海域の南側及び沿岸寄りに限られた一方、昨年調査海域の北

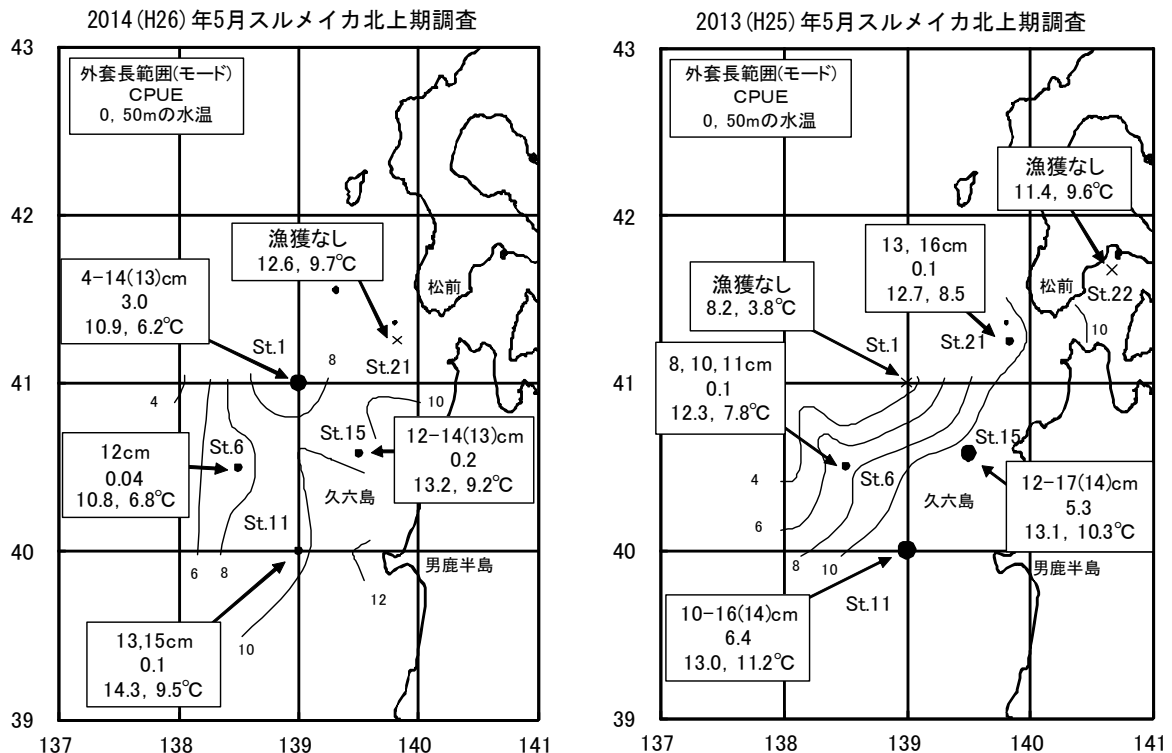


図 1 スルメイカ漁獲調査結果 (2013 年との比較)。●は漁獲調査点。面積は CPUE に比例。
×は漁獲なし。等温線は水深 50m の水温 (°C)。函館沖 St.22 は 2014 年から海洋観測のみ

側及び沖側に広く見られた6℃以下の低水温の海域も、今年は調査海域の沖側だけに見られました。全体として、調査海域の北側と南側、沖合と沿岸域の水温差が昨年と比べ小さい傾向が見られました。

2. 分布密度 (図1、図2)

松前沖 St.21 以南の漁獲調査点5地点の CPUE (2連式イカ釣機 1台 1時間当たり漁獲尾数) は 0 ~ 3.0 (昨年 0 ~ 6.4) の範囲にありました。平均 CPUE は 0.7 で昨年 (2.4) を大きく下回り、2001 年以降で最も低い値となりました。

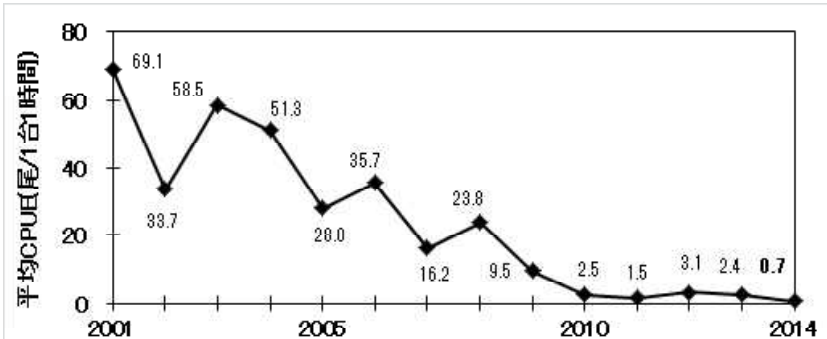


図2 松前以南5地点の平均 CPUE の経年変化 (2001 年以降)

最も CPUE が高かったのは津軽半島西方沖の St.1 (CPUE 3.0) でした。道南海域への来遊の目安となる松前沖 St.21 (昨年 CPUE 0.1) では漁獲がなく、最も南側の調査点である秋田県男鹿半島沖 St.11 の CPUE も 0.1 (昨年 6.4) と非常に低い値でした。

2014 年度の日本海全体の来遊量は平年を下回るものの昨年並みと予想されていますが (浮魚ニュース 2014 年度 2 号)、今回の調査結果に加え、秋田以北の本州日本海各港でも 5 月 23 日現在スルメイカの水揚げがまだ本格化していないことや、過去 10 年間に道南日本海へのスルメイカ来遊時期が遅くなる傾向が見られることから、この海域への北上群の来遊は過去に比べ遅れていると考えられ、6 月の漁期開始直後の漁獲も近年では低い水準に止まることが予想されます。

3. スルメイカの大きさ (図3)

調査海域全体のスルメイカ外套長 (胴長) の範囲は 4 ~ 15cm (昨年 8 ~ 17cm) でした。最も多く漁獲されたイカの大きさ (モード) は 13cm (昨年 14cm) で、魚体サイズは昨年及び過去 5 年平均より小型でした。

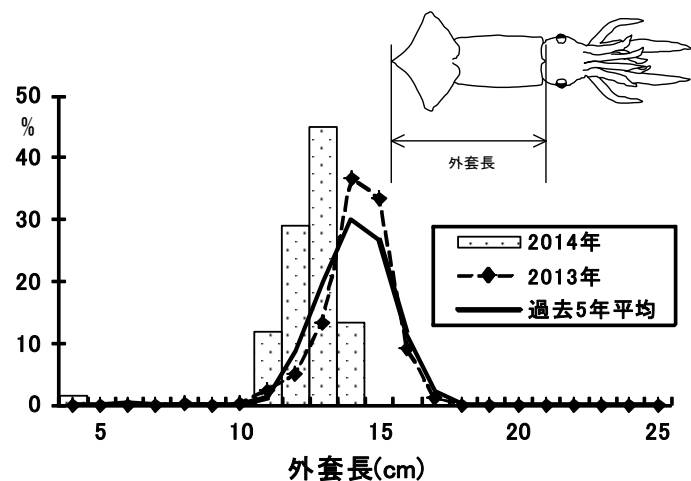


図3 調査海域全体の外套長組成

(函館水産試験場調査研究部 TEL : 0138-57-6056、FAX : 0138-57-5991 (5/30 まで))

TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849 (6/2 から))

※函館水試は6月より函館市国際水産・海洋総合研究センター (函館市弁天町 20-5) 内に移転します